

Mark Edit

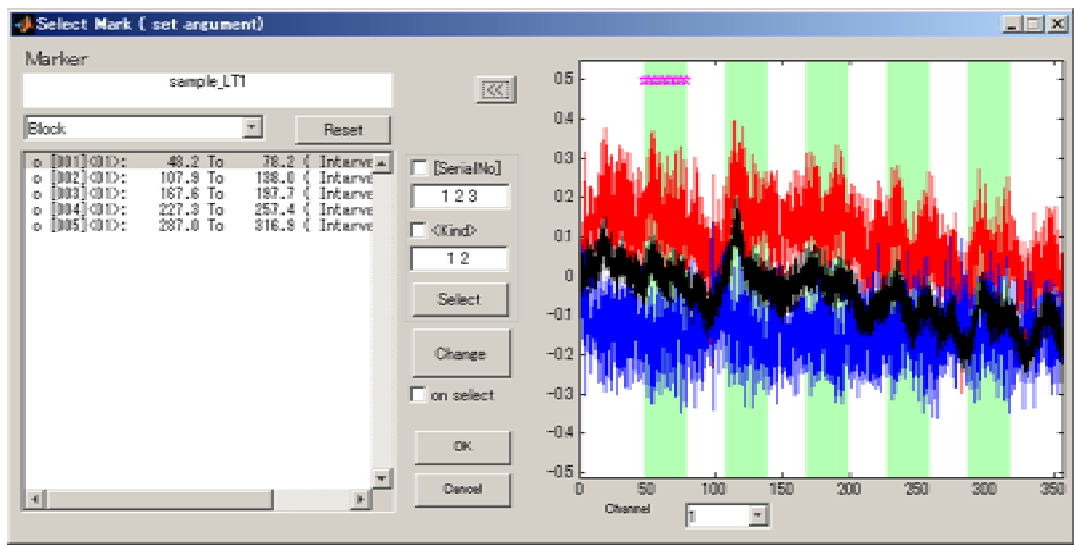
機能

光トポグラフィ計測時に入力した刺激マークを編集します。

ここで刺激を無効にすることにより、無視できないノイズのあるデータデータを除くことができます。

パラメータ設定

パラメータ設定画面は以下のようになります。



」ボタンを押すとデータ中のマークの詳細を確認することができます。

右側に時系列データ内に、刺激区間は薄緑色でマークが表示され、選択中のマークにはピンク色の「*」が表示されます。

マークリスト内で1番目のマークが選択されている状態で、「Change」ボタンを押します。すると、リストボックス内の表示が「」から「×」に変わります。右のグラフ表示でも、緑色のボックスが消えました。これは、ブロック化などの処理のときに、このブロックが使用されないことを意味します。

画面中央に、[SerialNo]と<Kind>のチェックボックスがあります。

[SerialNo]チェックボックスでは、マークリストの左端の通し番号を選択できます。<Kind>チェックボックスでは、画面左のマークリストに表示された 2 列目の<>で囲まれた番号のマークを指定することができます。

The image shows two parts of a software interface. On the left is a list of marks with columns for a serial number, a kind in angle brackets, and a value. On the right is a control panel with checkboxes for '[SerialNo]' and '<Kind>', text input boxes for selecting ranges, and a 'Select' button.

SerialNo	<Kind>	Value
[001]	<01>	48
[002]	<01>	107
[003]	<01>	167
[004]	<01>	227
[005]	<01>	287

Control Panel:

- ☐ [SerialNo]
- Text box: 1 2 3
- ☐ <Kind>
- Text box: 1 2
- Button: Select

[SerialNo]にチェックを入れ、その下のテキストボックスに「1:2:5」と入れ、「Secelct」ボタンを押します。すると、マークの 1, 3, 5 番が選択されます。

<Kind>チェックボックスは他の関数と異なり, Oxy, Deoxy, Total を意味せず, 計測中に入力したマークの種類 A,B,C を意味します。

サンプルデータの実験デザインは Block (ブロック) ですが, Event データとして扱うこともできます。左上のプルダウンの「Block」を「Event」にしてみます。(通常、この設定は装置からのデータを取り込むときに自動的に設定されています。)

操作はマニュアル『Research Mode』の解析準備**エラー! ブックマークが自己参照を行っています**。内のマーク編集とほぼ同じです。マーク編集は実験データを書き換えますが、Mark Edit はフィルタとして一時的に刺激マークを設定します。